

別紙様式

## 組織評価の改善状況報告書

令和元年6月3日

評価会議議長 殿

創造科学技術大学院長

組織評価に関する実施要項第10条に基づき、組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり平成30年度の改善状況を報告します。

要改善事項
【基準5】修了生の質の保証（改善による効果はどのように測るのか） 【基準8】教育の質の定量化の方法
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
論文数、論文の質、論文のインパクトファクター、国内・国際会議での発表件数、受賞数、新聞・メディアでの報道・紹介記事などを、大学院長表彰に反映し、web等でもリアルタイムで紹介するとともに、学長表彰候補者として推薦するなど、質の向上につなげている。学生への教育の質の定量化は、企業へのアンケートなどを含めて課題として検討して行く。
改善状況
教育の質の定量化に関して、在学生等評価・卒業生等評価が平成30年度に実施された。これら評価は6年に1度、全学で実施している。これらの集計結果は大学WEBサイトに掲載されている（在学生等評価は学内限定公開）。 <a href="http://www.shizuoka.ac.jp/outline/index_stu_30.html">http://www.shizuoka.ac.jp/outline/index_stu_30.html</a> 卒業生等評価のうち修了生アンケートについては、「大学教育の満足度」→「大学で身についたと思う能力」→「社会でどの程度役立っているか」という構成になっている。満足度だけでなく、社会で役立っているかまで確認しており、教育の質の定量化の方法として適切に実施されたと判断する。 *改善計画の定量化以外については前年度までに対応済み
達成年度（予定を含む）
平成30年度